



「非文字資料」と国際交流日誌

ジョン・ボチャラリ (東京大学教授・神奈川大学大学院非常勤講師 / COE事業推進担当者)

私の担当している授業の中で、「比較文化基層論演習」がある。東京大学教養学部超域文化科学科の比較日本文化論コースの必修科目であって、八名の若武者が履修している。

授業の一環として、この間築地界限見学を計画してみた。「何人かの留学生も呼ぼうか」と提案したところ、二つ返事が返ってきたので、留学生が多く参加している別な授業で宣伝してみた。結局、中国から三名の学生、シンガポール、ニュージーランドから中国系の学生一人ずつ、韓国から一人と一緒にいくことになった。

実は、「比較文化基層論演習」では、ちょうどそのときイザベラ・バード(1831年~1904年)著『日本奥地紀行』(Unbeaten Tracks in Japan)および宮本常一の解説書『日本奥地紀行を読む』を取り上げていたところであった。周知のとおり、開国してまだ十年のときに来日したバード女史は日本人通訳者を一人連れて、東北と北海道を旅し、その体験を手記に残している。日本人ならあまりにも当たり前で日常的だからあえて書き留めない現象もこのイギリス人にとっては驚きの連続で、『紀行』に細かく描写しており、今日では貴重な民俗資料として評価されている。さて、今回の見学会は今時の留学生による「築地紀行」になるであろうか。

10:00 歌舞伎座前集合。秋晴れ。

留学生:「歌舞伎を見たことがないが。」

日本人学生:「僕たちも。」

留学生:「面白いかな。」

日本人学生:「さあ。」

留学生は弁当、切符の値段、昼の部と夜の部それぞれ出し物が違うこと、建物の大きさなどに感心する。

日本人学生:「そういわれたら、そうだな。」

10:30 築地本願寺

日本人学生、留学生を問わず、感嘆の声。「こんな建物、見たことがない!!」

私:「どういうスタイルかね?」

学生たち:「日本でもあり、中国でもあり、それにインド!」

留学生:「まさしく、仏教の歴史。」

全員:「そうだ!」

日本人学生:「オルガンもあって、キリスト教みたい。翼がついている狛犬なんて、中近東かね。」

本願寺では外国語による布教活動も行われていると聞いたら、なお感心。

11:00 明石町周辺

元の外国人居留地だった界限へ移動。近世には浅野内匠頭の屋敷や『解体新書』が訳されたところ、近代には慶應義塾大学、立教大学、明治学院大学、近代医学などの発祥の地だ、といえ、日本人学生はそれなりに感動するが、留学生の頭の上にクエスチョン・マークが現れる。日本人学生は一生懸命に説明する。

留学生:「あの大きい建物の上に十字架が見えるけど、教会か?」

今度は日本人学生の上にクエスチョン・マーク。それは先に話していた近代医学の始まりに貢献した聖路加病院であって、宣教師によって創立されたものだから、と私が説明すると、納得してくれた。おまけに、指紋法の発想は築地で生まれた、と聞くと、更に皆は「へー」と感動した。

留学生:「こういう東京は見たことはなかった。」「緑は意外と多いね。」

日本人学生:「そういわれたらそうだね。」

11:30 聖路加ガーデンの展望台

高いところから東京の風景を眺める。下に流れる隅田川、すぐ近くの築地市場、東京タワー、新宿の副都心、遠くの山々。

留学生:「高いビルから見下ろすと、どの町も同じように見えるね。」

日本人学生:「……………」

12:00 佃大橋を渡り、佃島へ

授業の際、佃島のことを少々詳しく説明したためか、日本人学生が熱心に案内役を勤めてくれた。徳川家康が関西から漁師たちを呼び寄せて、この島に住ませた話、佃煮のこと、震災被災を逃れたので、昔ながらの下町の面影を保っていること、島の守り神の住吉神社のことなど。日本人学生も留学生の質問に答えているうちに調子が乗ってきて、様々なことに気づいたようだ。

日本人学生：「多くの家の前に植木が置いてあるね。さすが下町。」「路地が狭いけど、比較的広い道もある。きっと例の有名な佃島の盆踊りや三年に一回の祭りはここでやっているだろうな。」「島、といっても、埋め立てで島がなくなっている。」「それに、周りにでっかいマンションばかり。東京ならでの風景。」

彼らの熱意は留学生たちに広がっていった。

留学生：「ここはいいね！住んでみたい。」

佃煮の香りを嗅ぎすぎたせいか、一同はすっかりおなかが空いてしまって、「市場ですしを！」との声があがった。

13:00 月島と勝鬨橋を経て、築地市場へ

昼食の前に、波除神社に立ち寄る。玉子塚、海老塚や様々な魚にささげられている塚を見て、全員爆笑。

皆：「日本の民間信仰が面白い！」

祭日のため、市場そのものはもちろんのこと、場外も人がまばら。しかし、わずかに数軒の営業中の寿司屋の前に、長い列の人々が待っている。やっと座って、食べ出したら、「おいしい！」という一言以外は会話らしい会話なしで、ただ満足した顔のみ。唯一の不満は「やすすくないね」とのこと。

14:30 浜離宮恩賜庭園

庭園の前にたくさんのツアーバスが駐車しているのを見て、悪い予感はあるが、その広々とした空間に入ったら、観光客の存在はあまり気にならない。日本人学生にとってもはじめての浜離宮なので、留学生同様に周りのオフィスビルと自然にあふれた公園のコントラストに驚く様子。潮の干満で水位を変える池と水門、鴨をおびき入れて、狩場となっていた入り江、東京都で一番古いとされている松の大樹、大道芸の実演などにはかなり興味を寄せているが、最も関心を引くのは池の上に建っている茶屋だ。明治天皇がアメリカのグラント大統領を接待したといわれている茶屋は戦争で焼かれたが、戦後に再建された、

という。また長い列で待った甲斐があったみたいで、留学生のはじめての抹茶と和菓子をいただく機会となる。

日本人学生の一人は高校時代に茶道部に入っていたので、お手並みを拝見。留学生も日本人学生も熱心にその先生の真似をする。(気づいたら、店員たちとほかの客が不思議そうな顔で我々をじっと見詰めている。気恥ずかしい思いで退室。)

16:00 新橋駅へ向かう

某社のビルの前で、その斬新なデザインに皆が感心する。日本人学生：「さすが某社。このビルを建てるのに相当悪いことをしているだろうな。」

留学生：「本当？例えば、どういう悪いこと？」

日本人学生：「今のは冗談だよ。」

留学生：「・・・・・・？」

17:00 渋谷の懇親会会場で集合。

今日の出来事、日中韓の乾杯方法や食べ方の違いなどについて楽しく話し合う。

20:00 解散

後日、それぞれのグループに感想を聞いてみた。

日本人学生：「大変面白かった。東京にいながら、ああいう東京を見たことはなかった。留学生と一緒に行ったのもいい意味での緊張感があった。彼らの質問にどう答えるか、彼らにとって何が面白いかを考えるのが非常に勉強になった。留学生の目を通して東京を見ることが大変新鮮な体験だった。」

留学生：「大変面白かった。ガイドブックを見るだけでは行ってみる気にならないようなところだったが、実際に行ってみたら、さりげなく日本についていろいろ勉強になった。今まで、日本の勉強は文献ばかりだったが、本に書かれていないことを日本人と一緒に考えるのが最高だった。」

COEプログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」の仕事をやると、どうやら多くの物事 建築物、景観、食べ方などを「非文字資料」として見直す癖がつくらしい。外国の人々と一緒にこういった資料を見ると、忘れがちな「人類文化」の側面がより鮮明に見えてくる気がした。また、日本人と日本人でない人々が一緒に見て、それについて語り合うと、ただの「見物」ではなく、貴重な国際交流のきっかけになる、と痛感している今日この頃である。